子ども読書支援センターニュース　　Ｎｏ.253

２０２５．６．３０

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

（電話:083-924-2113　FAX:083-932-2817
Eメール:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！】

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

＊各イベントの詳細については、当センターのホームページよりご確認ください。　⟹

★「幼児のためのおはなし会」（毎月第一火曜日）

○日時：令和７年７月１日（火）　８月５日（火）　11：00～11：20
○会場：山口県立山口図書館　第２研修室　○対象：幼児　○定員：10組程度

★「第２回新刊児童書閲覧会」

○日時：令和７年７月17日（木）～７月23日（水）9：00～17：00
○会場：山口県立山口図書館　第２研修室（こどもとしょしつ　３Ｆ）
○対象：市町立図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア関係者、子どもの本に関心のある方
○定員：一人２時間、各時間帯20名程度（申込み優先・当日参加も可）
○申込方法：７月16日（水）17：00までに、電子申請又はＦＡＸ、来館　（ＨＰの要項をご覧ください。）

★令和７年度小学生対象企画「夏休み！絵本でひろがる防災ワールド」

○日時：令和７年８月１日（金）　13：30～15：30（受付13：00～）
○会場：山口県立山口図書館　第２研修室（こどもとしょしつ　３Ｆ）
○講師：西尾　幸一郎　氏（国立大学法人　山口大学　教育学部准教授）
○内容：防災に関連する本をもとにした簡単な体験型ワークショップ
　　図書館職員による読み聞かせ及びブックトーク
○対象：小学生（＊小学生のみの参加でも可。保護者・小学生以外の兄弟姉妹等の同伴の参加も可）
○定員：４０名程度（同伴者の人数を含む。要申込み、先着順、定員になり次第締め切り）
○申込方法：電子申請又は来館（ＨＰの要項をご覧ください。）

◎連絡先:山口県子ども読書支援センター
（電話:083-924-2113　FAX:083-932-2817　Eメール:a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】価格は消費税抜き

＜絵本ー乳幼児から＞

『くだものららら』　金内織恵/作　童心社　2025.4　¥1000

はっぱのあいだにある、つやつやのまっかなりんご。ぽこぽことすずなりのみかんに、ぎっしりあつまったばなな。もしゃもしゃのはっぱのしたには、おもたいめろんとすいかも。かわをむいて、さあたべよう。リズミカルなオノマトペとともに、それぞれの果物の実っている様子から皮をむいて切り分けた姿までが緻密に描かれる。ブックデザイナーで植物画家の作者による初の絵本。

＜絵本ー3，4歳から＞

『いもむしずんずん』　伊佐久美/作　講談社　2025.4　¥1600

いもむしはずんずんはしる。やまをおりて、はしをわたり、こうそくどうろをずんずんずん。くるまよりおおきないもむしは、あかしんごうではきちんととまる。まちなかにあつまってきたいもむしたちは、いっせいにビルをのぼっていく。ビルのかべにくっついてとまり、さなぎになったかとおもうと、ついに…。最後まで予想のつかないシュールな展開に引き込まれるユーモア絵本。

＜絵本ー5，6歳から＞

『ほんやくすると』　斉藤倫・うきまる/文　くのまり/絵　ブロンズ新社　2025.4　¥1600

うまれたてのあかちゃんにしっぽをふるいぬ。これは、ほんやくすると「とってもうれしい」ってこと。すっかりぼろぼろになったぬいぐるみを、あかちゃんにしょうかいするいぬ。これは、ほんやくすると「おきにいり」ってこと。そうしておなじときをすごすなかで、ほんやくしなくたってわかることもあって…。犬の視点で、飼い主の家に生まれた新たな家族との歩みを綴る絵本。

＜絵本ー小学校低学年から＞

『こころのあな』　リンジー・ボニヤ/文　ブリジダ・マーグロ/絵　東菜奈/訳　岩崎書店　2025.4　¥1600

おとうとのマッティーがいなくなってから、「ぼく」にはあながみえるようになった。どこにでもついてくるこのふかく

てくらいあなが、「ぼく」はだいっきらい。あるとき、がっこうでともだちのノラとあなのはなしをしたことがきっかけで、あなのいちばんしたまでおちていくことに。そのなかでやりきれないきもちをぶつけ、やがて…。喪失感に静かに寄り添うグリーフケア絵本。

＜読み物ー小学校低学年から＞

『わかったさんのチョコレート』　永井郁子/作絵　寺村輝夫/原案　あかね書房　2025.5　¥1200

「わかった」が口癖のわかったさんはクリーニング屋さん。お得意様から２つの人形を預かり車に乗り込むと…いつの間にか知らないお城の前にいた。そこでわかったさんが作ることになったのはチョコレートのお菓子。1987年刊行からロングセラーのわかったさん。寺村輝夫氏の世界観を、長年挿絵を担当してきた永井郁子氏が受けついで物語と絵を描いた新シリーズ第２巻。

＜読み物ー小学校中学年から＞

『ないろのはし』　横山佳/作　平澤朋子/絵　BL出版　2025.4　¥1600

４年生の男子、空海（そらみ）は、きらいなものがいっぱい。さくらもち、片付け、お父さんのどなる声、人に思いを伝えることも。耳が聞こえない祖父とぎくしゃくする父が気になりながら何もできずにいる空海。ある時、友達に誘われてデイサービスで自作の歌を手話付きで発表するが…。苦手なことに向き合っていこうとする少年と不器用ながらも互いを思い合う家族の物語。

＜読み物ー小学校高学年から＞

『わたし、わかんない』　岩瀬成子/著　講談社　2025.4　¥1400

両親の別居をきっかけに母と二人暮らしをはじめる小４の少女、中（なか）。型にはめられると感じる学校も、「わかんない」と答えることを引き合いに出されて「わかんないちゃん」と揶揄される教室も自分の居場所だと感じられない。常識が自分にとっての正解とはかぎらない。中や両親、母の同僚等、それぞれが自己と向き合い決断していくことの葛藤を描く。筆者は山口県在住。

＜読み物ー中学生から＞

『そして砂漠は消える』　マリー・パヴレンコ/作　河野万里子/訳　静山社　2025.5　¥1850

文明が滅び砂漠化した近未来の世界で、遊牧民として生きる12歳の少女サマァ。木を狩ることでキャンプに食料や物資をもたらす男達「ハンター」に憧れ、狩りへと発つ一団を追いキャンプを抜け出すが、穴に落ちて…。木や動物と出会いながら生き延びる少女の眼差しを通じ、地球環境問題を問いかける一冊。サン=テグジュペリ賞、フランス文学者協会児童書部門大賞受賞作の邦訳。

＜ノンフィクションー小学校低学年から＞

『けんちくってたのしい！』　隈研吾/監修　たつみなつこ/絵・文　KADOKAWA　2025.4　¥1800

ある図書館の柱が格好良くて小枝で再現しようとした小学生のいつき。そこで出会ったのは建築家の「くま（隈）さん」。いつきたちはいつの間にか、世界中の建築物を旅していて…。様々な材料を使ったものづくりの楽しさを伝える建築絵本。前後の見返しに隈研吾氏による建築のラフスケッチを収録。巻末に掲載された建物の一覧の他、隈氏のプロフィール・メッセージの掲載あり。

＜ノンフィクションー小学校高学年から＞

『世界をつくる数のはなし』　横山明日希/監修　メイツユニバーサルコンテンツ　2025.4　¥2000

AIロボットのピサが「数」をテーマに世界中を案内する。人や虫、乗り物や建物が左右対称（シンメトリー）となる理由や、美しさや安定を感じる形がもつ比率（黄金比）、イタリアの数学者の名がもとになったフィボナッチ数列など、身の回りに関わる数学をイラストや図形で分かりやすく解説する。数の世界の楽しみ方を伝える１冊。複製して使えるワークシート等の掲載あり。

＜ノンフィクションー中学生から＞

『世界の力関係がわかる本』　千々和泰明/著　筑摩書房　2025.5　¥900

ロシアのウクライナ侵略、イスラエル軍のガザ侵攻など、今も世界で絶えない戦争や紛争。本書は国同士の力関係を軸に、帝国と主権、大戦発生のメカニズム、集団安全保障や核抑止、戦争終結等のテーマを分かりやすく解説。戦争のない世の中を実現するために私たちはどうすべきか、一人ひとりが考えるための国際政治の入門書。著者は防衛政策史、戦争終結論が専門の研究者。

＜研究書＞

『絵本とは何かー起源から表現の可能性まで』　松本猛/著　岩波書店　2025.2　¥2500

絵本は、絵とテキストの融合によって生みだされる総合芸術の一ジャンル。古代エジプトの巻物『死者の書』から現代に至る絵本の歴史、多様な表現方法とその魅力、また普遍的なテーマや電子書籍時代における絵本の可能性等について、多数の絵本を取り上げ、書影、図版付きで解説。著者は、いわさきちひろの長男で美術・絵本評論家。巻末には紹介絵本の索引及び参考文献あり。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索（OPAC）では検索できませんが、利用することは可能です。収書のための選書の参考として、閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。

山口県立山口図書館では、電子図書館サービスを提供しています。利用案内はこちらから→
https://library.pref.yamaguchi.lg.jp/dlibrary/